

進路だより

令和7年9月16日
東京都立中野特別支援校+
しいの木分教室
校長 和田 慎也
担当 八木澤 小織
第3号

今年度も教員対象とした多くの研修が夏季休業中にありました。その中、進路指導部主催のものでは、「特別支援学校におけるキャリア教育」について学びました。学校生活の中の目標として、「児童・生徒一人一人の実態に応じて、自立と社会参加を目指し、自分でできることを増やしていこうとする意欲や態度をはぐくみ、卒業後の生活を視野に入れ自分の生き方を主体的に考え、自己表現を果たしていこうとする能力や態度を育成すること」という言葉がありました。小学部から基本的な生活習慣として積み重ね、卒業後の生活に結び付けていくことの大切さを学びました。

また、今年度も事業所見学会を開催しました。小学部や保健室の教員から中学部、高等部の教員まで学校全体で参加し、改めて高等部卒業時まで在学中にどのような力を育てておく方が良いのかを考える機会になりました。

なお、12月と2月には、企業就労や卒業後の生活について、保護者のかたに向けた進路研修会を予定しております。詳細は決まり次第お知らせいたします。ぜひご参加いただければと思います。

○教員研修（事業所見学）

★ファースト・ファシリティーズ・チャレンジド(株)

三井不動産ファシリティーズグループの特例子会社で、オフィスビルの清掃業務、社内連絡便業務、事務用品補充業務を行っています。この会社では、3か月毎にローテーションをしながら全員がすべての業務を行うそうです。はじめは先輩や指導員がついて仕事をしますが、最終的には全て一人で行うようになるそうで、見学時は全員が1人作業を行っていました。作業開始時には自分で当日の作業場所を確認し、必要な道具を準備して、迷路のように広いビルの中を迷わず作業場まで移動する姿が印象的でした。実習生も含め皆さんすぐに道を覚え、地図に頼らず移動できるようになるとのこととても驚きました。また、グループ会社の新しいビルが建つと何名か異動となりますが、社員の中で異動に選ばれることは非常にステータスが高いことだそうです。異動先では初めはもめることもあるけれど、徐々に協力し合うようになっていくと聞き、責任感は信頼から芽生えていくのだと実感しました。

(保健室 和田 舞子)

★ファースト・ファシリティーズ・チャレンジド(株)

三井不動産ファシリティーズ株式会社の特例子会社であるファースト・ファシリティーズ・チャレンジド株式会社の見学をさせていただきました。業務内容としては、オフィスビル等の建物清掃業務、郵便物仕分け、社内連絡便業務、事務用備品補充業務があります。今回は、清掃業務の様子を見学させていただきましたが、体力が必要である、ということ強く感じました。具体的には、お弁当の空箱の回収を、一人で10フロア分回収しているそうで、エアコンのない環境の中、徐々にゴミが重くなるということもあり、かなりの体力が必要であると思われます。また、ゴミ箱と袋の大きさの違いを加味して袋のセッティング方法を考えたり、複数の荷物を左右どちらの手や腕を使って運ぶかを考えたりと、細かな工夫も見受けられました。講義では、達成感のある業務を大切にされている職場であることが分かり、生き生きと明るく働くことの重要性を改めて感じました。

(高等部1年担任：杉村 あみ)

★コロニーもみじやま支援センター

コロニーもみじやま支援センターは障害のある方が「地域で働き・暮らすこと」を応援するため、一人ひとりの利用目的に沿った支援を提供している施設です。利用者さんが安心・安全に作業や生活ができる場所であり、地域の方も災害時の時には避難所として活用できる場所ともなっていました。様々なニーズに対応しており、本校の卒業生も利用していました。スタッフのみなさんが利用者さんの一人ひとりの特性や強みを理解し活かす支援をしており、作業に丁寧に取り組む姿や、レクリエーションに楽しそうに取り組む姿、宿泊することが楽しみな姿がとても印象的でした

講義の中では、権利・義務・責任、挨拶・報告、自分の良さを理解し自信をもつことの大切について教えていただき、学生の中から将来を見据えて多くの経験を積み重ねの大切さを改めて感じました。

(中学部2年担任：長澤 佳奈芽)

★杉並区立すぎのき生活園

すぎのき生活園は、生活介護事業所です。施設の建物の建て替えを行うため、来年度からは上井草の仮施設で運営され、令和10年度には新しい建物での運営が再開されるそうです。利用者さんは、18歳から60代までと年齢の幅が広く、重複障害の方、視覚障害の方など、実態も多様です。地域に根差した活動を行っていて、リアカーを押して巡回していると、地域住民の方が優しく声をかけてくれ、段ボールやアルミ缶の回収に快く応じてくれるそうです。午後はリフレッシュの時間で、レクリエーションを行ったり、みんなで動画をみて過ごしたりします。スタッフのみなさんや、レクリエーションに参加する利用者の皆さんが本当に楽しそうで、盛り上がった場面では思わずこちらも拍手してしまうほどでした。生活介護事業所は単なる「居場所」ではなく、利用者さん一人ひとりの「生活の豊かさを支える拠り所」としての役割を担っていること、その大切さを肌で感じることができました。

(小学部2年担任：水名 周)

○卒業生の定着支援

都立特別支援学校では、新規卒業生の定着支援の目的で、進路担当者が中心となって職場訪問を実施しています。これは、高等部卒業時に策定する「個別移行支援計画」に基づいた、望ましいスムーズな社会意向を目指した取り組みの一つとなっています。在校生が夏季休業中の際は、元担任も職場訪問に協力していただいております。元担任にとっても、懐かしい顔に出会える場になっています。

職場訪問で進路先に伺うと、卒業生の表情はそれぞれです。とびきりの笑顔で出迎えてくれる方、訪問した教員の様子を気にしながらも、「自分は頑張っているよ」と遠くでアピールしてくれる方、「我関せず」を決めて塩対応の方など、それぞれの様子を拝見する楽しみがあります。その中で、進路先の方から、彼らの成長の話聞くことは私たち教員の楽しみの一つです。「在学中、登校が不安定だった方が、進路先に通って活動できるようになってきた」「情緒が安定して、活動にもスムーズに参加できるようになってきた」など、在学中から成長した彼らの話は、私たち教員を元気にします。

その一方で、進路先からの話は良いものばかりではありません。18歳を過ぎ、一人の成人(社会人)として扱われるようになることで、学校時代には許されて(守られて)いたことを求められることもあります。このような課題は丁寧に聞き取り、学校時代に実施していた手立てを紹介したり、場合によっては、保護者や支援機関に連絡して、その解決方法を相談したりします。

学校を卒業して社会に出るにあたっては、大きな期待と不安があることと思います。そうした不安を少しでも和らげ、取り除くことができるのも、私たち教員の役割と考えています。

(高等部進路指導専任：田邊 大樹)